

開設科目の概要

No.	開設科目名	科目の概要
1	カトリック神学総論	<p>本講義ではカトリック神学の全体像を概観する。つまり、御父である神による創造のわざによって愛の呼びかけを受けた人間が自由意志を誤用して原罪を負いつつも御子イエス・キリストの到来によって救済されて教会共同体を営むことであらゆる人に対しても愛の奉仕を捧げることで終末へと旅する歩みを解説する。歴史的な信仰共同体の歩みを理性的に考察しつつ各自の感性や意志を総動員して人間性を洗練させることで超越的ないのちの在り方に向かう姿勢が「神学」である。神学の諸分野を12項目（創造論、基礎神学、キリスト論、聖霊論、福音宣教論、人間論、教会論、救済論、実践神学、三位一体論、恩恵・霊性論、復活・終末論）に分けて解説する。</p> <p>※テキスト 『キリストとともに—世界が広がる神学入門』 阿部仲麻呂（2023年、オリエンズ宗教研究所、ISBN：978-4-87232-120-3） 2,200円（税込）</p> <p>※参考書 『ひびきあう日本文化と福音 三者三様のおもい』 阿部仲麻呂他（2023年、教友社、ISBN：978-4-907991-85-2）3,300円（税込）</p>
2	宗教科教育法23-1	<p>カトリック・ミッションスクールの「宗教」の授業に必要な知識と技法を学び、適切な授業を行う実践力を養うことを目的とする。特に学習指導要領の改訂に伴う学習観の変化と宗教の関係に着目したい。講義に加えて祈り、グループワーク、模擬授業を行う。参加者全員で対話し、より良い宗教の授業を探求する場としたい。主な内容は、①カリキュラムと評価：コンピテンシーと評価からの単元設計。観点別の評価を踏まえたカリキュラムデザイン。②授業の構成：導入とまとめ。③聖書：聖書をどのように生徒に伝えるか。④教材の活用とアクティブラーニング：哲学対話、ICTの活用。⑤授業作成と模擬授業＋相互検討会を行う。</p> <p>※テキスト—『聖書』（新共同訳か聖書協会共同訳が望ましい）—</p> <p>※お手持ちの聖書があればご持参ください。新たに購入する必要はありません。（20230602訂正）</p>
3	キリスト教教理史2023	<p>「キリスト教教理史2023」の授業では、キリスト教における「諸宗教の神学」の歴史について取り扱う。20世紀以降に展開した「諸宗教の神学」のさまざまな考え方を、教理史的な観点から理解することを目指す。そして、カトリック教会がキリスト教以外の諸宗教をどのように理解し、その救済価値をいかに捉えているのかを考察する。そのうえで、現代のカトリック教会が自らの宣教活動のなかで諸宗教との対話をどのように推進しているのかを見る。</p>
4	キリスト教の周縁： 外側からみるキリスト教	<p>キリスト教の領域で論じられることが多いにも拘わらず、キリスト者というわけではない哲学者が少なからずいる。同様に、キリスト教的な人間観に基づいた活動を行っているけれども、脱宗教的な団体が少なからずある。こうしたキリスト教の側からみればキリスト教の周縁にあたる哲学者や団体をとりあげ、キリスト教の外側からみたキリスト教的なものについて考えることが本講座のテーマである。具体的には、講座初日ではフランスの哲学者であり、工場就労を行ったことで知られるシモーヌ・ヴェイユ（1909-1943）をとりあげる。講座2日目では、東京の山谷地域やアジア地域で活動した修道者とその修道者とともに活動した団体をとりあげる。</p>
5	キリスト教修道院 - 祈りと神探求の精神	<p>キリスト教が宗教である限り、それは信じて生きられねばならない。キリスト教における修道生活は、古代から現代に至るまで、それぞれの時代状況の中で、信徒が祈りの内に神を求めて生きてきた一つの信仰的生の形である。本講座では、キリスト教における修道生活の起源とその歴史的変遷を辿りながら、修道生活の多様な形態と霊性を紹介するとともに、修道生活が生み出した文化的影響とその今日的意味について改めて問い直してみたい。</p>
6	宗教科教育法23-2 (道徳科を包摂する宗教科教育)	<p>学校教育法上、「宗教」は小中学校においては「道徳」に替えて行われるものと位置づけられてきた。近年、「道徳」が特別な教科となり、内容項目が明確に定められ、これに基づく教科書も作成されるようになったことを踏まえて、「宗教」が「道徳」を真に代替し得ているかが問われるようになったと考える。本講座では、宗教教育と道徳教育との全体像とそれらの相違にも目を配りながら、「宗教」の授業は「道徳」の授業はどこが同じでどこが異なるのか、特に「道徳」では扱いきれない「宗教」独自の教育内容は何かといったことを考察するとともに、カリキュラムの作成、指導案の作成、模擬授業の実践などを交えた実践的指導を行う。</p>
7	アメリカ合衆国 「文化戦争」と宗教	<p>現代アメリカ合衆国は、保守とリベラルの間の「文化戦争」状態にあるといわれる。保守を支える一角には宗教右派と呼ばれる信仰熱心な人々がいることが指摘される一方、無宗教者は増加しつつあり、その多くが文化的にリベラルな傾向をもつ。2022年、宗教右派の後押しのもと、州単位の人工妊娠中絶全面禁止が実現したことは記憶に新しい。性的マイノリティの権利運動が進展するかたわら、男女間の異性愛のみが聖書によって認められているとの意見も根強い。</p> <p>講座では、宗教的志向と結びついた価値観によって分断されているように見えるアメリカの現在を、歴史的な背景とともに論じ、宗教が果たしてきた多面的な役割をより深く理解することを目指す。</p>
8	シリア・キリスト教研究入門	<p>シリア・キリスト教と言えば、極めて特異なタイプのキリスト教であって、今日、カトリック教会、プロテスタント諸教会を含め、西洋型のキリスト教から見れば、いわば傍流のものに過ぎないと思われるかもしれない。しかしながら、シリア語とは、イエスや弟子たちが話したとされるアラム語の一方言であり、シリア・キリスト教の作家たちの著作は、今日、私たちが改めてキリスト教という宗教の本質を問おうとする時、大変重要な意味を持っている。本講座では、シリア・キリスト教の世界について概説しながら、アラム的視点から宗教としてのキリスト教の本質について考えてみたい。</p>

9	聖書から理解するミサの言葉と所作の意味	<p>カトリック教会の礼拝、典礼の中心であるミサにおける言葉と所作について、聖書を中心にその意味を考察していきます。特に日本語のミサの式文が改訂された今、ミサの言葉と所作の意味について理解を深めることが求められています。本講義では新しい日本語のテキストそのものではなく、あくまでも原典のラテン語規範版のテキストに沿って解説を行います。受講者にとってミサそのものの理解を深めると同時にミサへの意識的な参加を促すきっかけとなることを期待しています。特にカトリック学校での礼拝や教理教育を指導する立場にある（今後そうなる）受講者にとっては、教会生活はもとより教育現場における礼拝・宗教指導の手助けともなることも期待しています。</p> <p>※テキスト 『ミサ聖祭 聖書にもとづくことばと所作の意味』 エドワード・スリ, 田中 昇, 湯浅 俊治 (2020年、フリープレス社、ISBN :978-4-43427-731-3) 2,200円 (税込)</p>
10	宗教科教育法23-3	<p>本講義では、カトリック系のミッションスクールにおける「宗教科」の教育の歴史的背景を学び、授業の構成の仕方の基礎を学ぶことに焦点を当てる。そのために、主に次の3点を扱う。①現代社会における宗教科の教育の射程と問題意識を検討すること。②キリスト教と教育の関係性を歴史的文脈において考察するとき、「宗教科」教育がどのように位置づけられるのかを検討すること。③現代のカトリック学校において用いられる基礎的な方法論と資料等を検討すること。</p>
11	秘跡総論（歴史と構成要素）	<p>「秘跡総論」とは、 sacrament 総論のことである。カトリック信者は、秘跡的世界において秘跡的信仰を持って生きる者である。カトリック教会には秘跡が7つある。洗礼、堅信、ミサ、赦し、婚姻、叙階、塗油はその7つである。これら個別秘跡を学ぶことを秘跡各論という。カトリック教会の秘跡論は、それぞれの時代を通して様々な要素の積み重ねから生じたものである。だから、現秘跡論に至ったその発展を見ていくことをこの授業の内容とする。つまり、秘跡論概念の歴史的考察（聖書時代から現代に至る）と体系的考察（秘跡を構成する重要な要素）を通じてどのように秘跡が機能するか（恩恵をもたらすか）を学ぶことはその内容になる。</p>
12	キリスト教思想文化史入門	<p>キリスト教は西洋近代の思想や文化に対して強い影響を及ぼし、その基盤形成に大きく貢献した宗教である。本講座では、そうした西洋近代に対するキリスト教という宗教の影響を視野に入れつつ、聖書解釈（聖書の役割や位置づけ、またその解釈方法）や教会共同体と世俗共同体の関係性（政治）といった各問題に対して、キリスト教あるいはそれと関わる思想や文化が、その歴史においてどのように変化していったのかを、特に近世・近代に着目しながら紹介する。</p>
13	宗教科教育法23-4	<p>本講義ではカトリック系のミッションスクールにおける「宗教科」の教育を含む宗教教育活動全般を射程に捉えつつ、これからの「宗教科」の教育を包括的に考察し、その具体的方法を検討することを目的とする。そのために、主に次の3点を扱う。①カトリック学校における「宗教科」教育の柱として「対話」・「回心」・「キリスト教ヒューマニズム」の概念を検討すること。②カトリック教育の一つのモデルとして Ignatian Pedagogy をはじめとした現代のイエズス会教育の方法論を検討すること。③現代のカトリック学校において用いられ得る、応用的な方法論と資料等を検討すること。</p>
14	世界宗教を学ぶ	<p>人類の精神史に大きな影響を与え、世界史そのものの形成にも大きな役割を果たしてきた世界宗教について学習する。まず最初に大きく東洋と西洋、多神教と一神教といった観点において宗教がどのような性格の特徴により類型化されるかを概観し、次いでキリスト教、イスラーム（教）、仏教といった具体的な世界宗教について、それぞれの成立事情や基本的な特徴、それらがもたらした文明的な意義や影響などについて学ぶ。最後にそのうえで、日本および日本人社会における精神性（宗教性）について確認し、これからわれわれが生きる世界を展望する。</p>

※テキスト（No.1. 2. 9） 各自で講座開催前にご用意ください。会場での販売はありません。